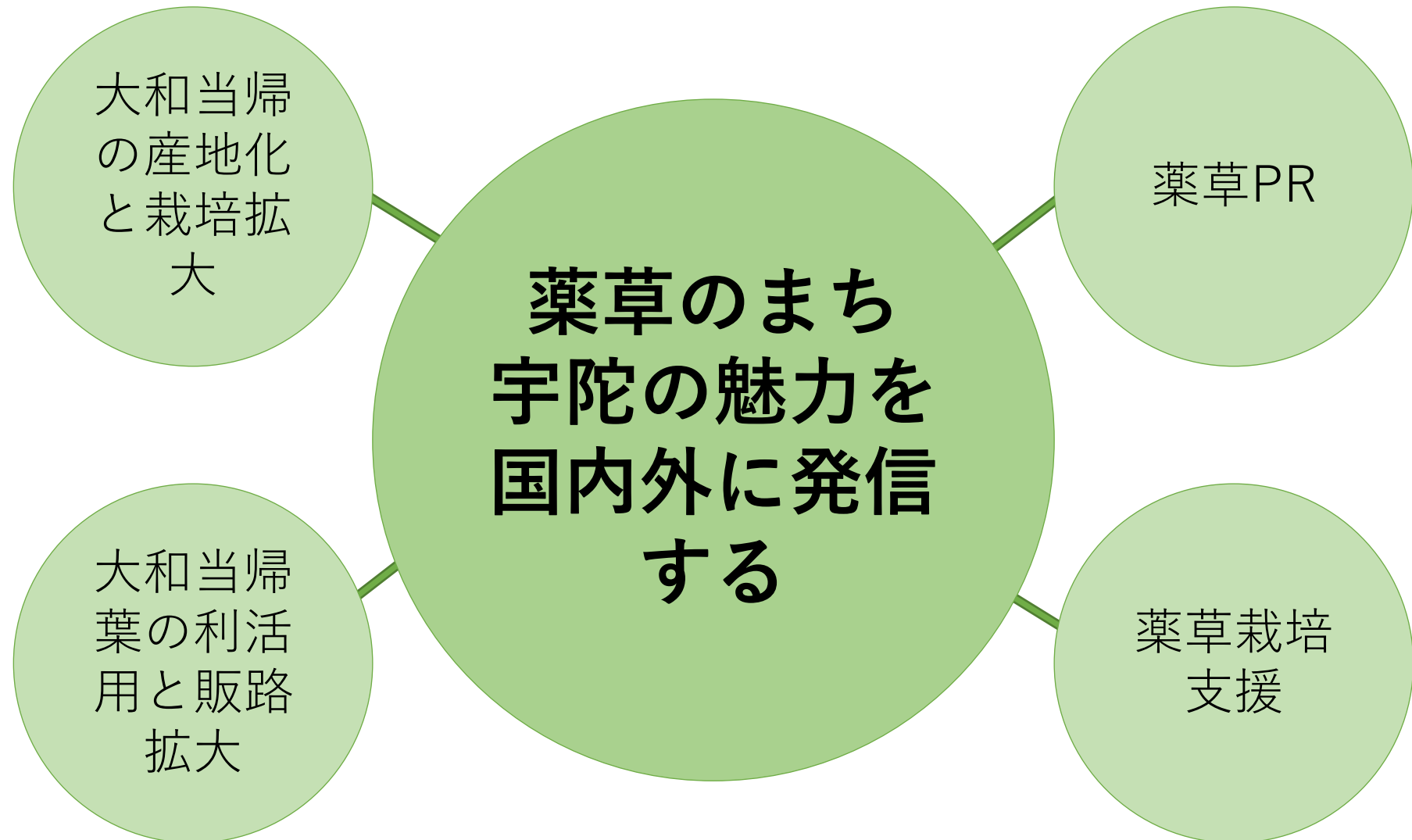


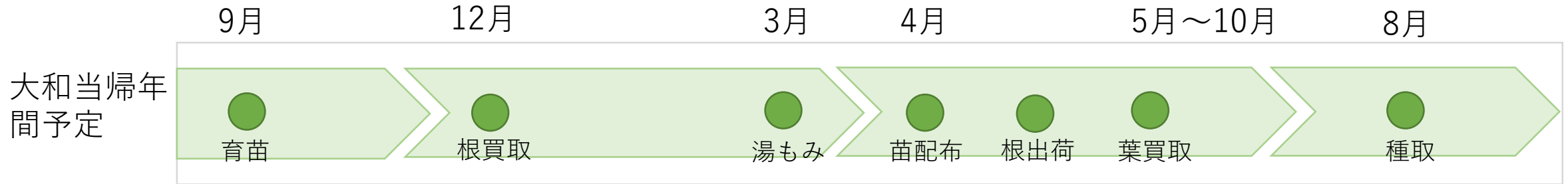
宇陀市薬草協議会の役割と 大和当帰の栽培事例



宇陀市薬草協議会の役割



大和当帰の産地化と栽培拡大

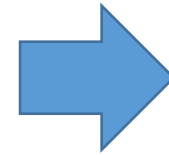


大和当帰の産地化を図るまでの取り組み

1. 栽培支援 奈良県と連携した栽培マニュアル作り
生産者負担軽減のための新たな栽培方法の研究 等

2. 生産者の負担軽減

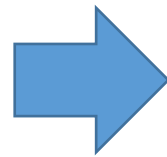
薬草協議会による種取り・育苗
薬草協議会による湯もみ作業



大和当帰の栽培に専念

3. 生産者の所得向上・遊休農地の解消

根の全量買い取り
当帰葉の全量買い取り



所得向上による生産意欲及び栽培面積の増加

大和当帰の栽培工夫（省力化）

ときわクラブ（薬用作物栽培グループ）の例

1 雑草対策—白黒マルチ 防草シート



2 苗の定植と追肥（穴肥）

- 自作用具の例 定植用トング（竹材） 穴あけ鉄パイプ 肥料投入パイプ



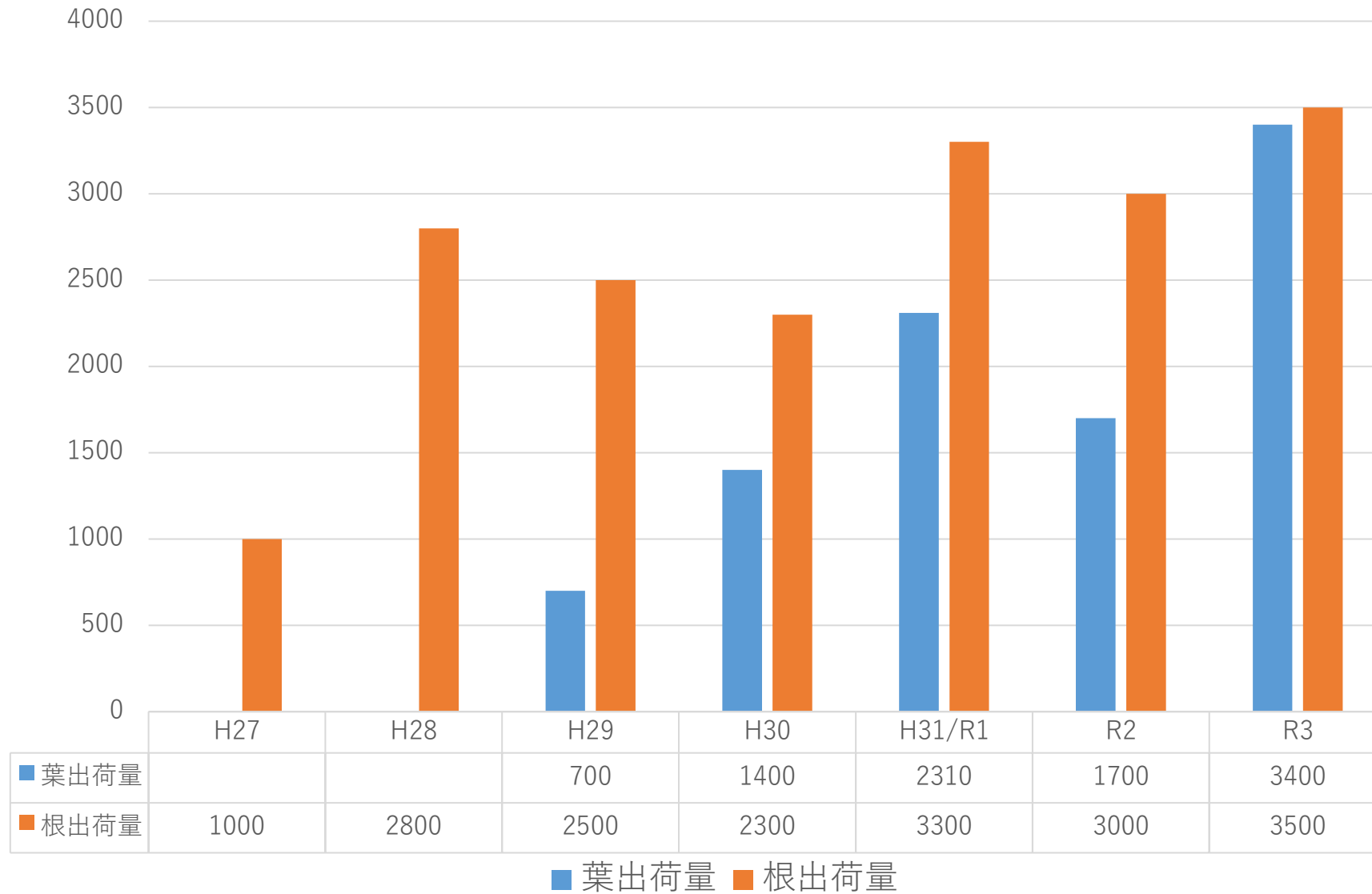
3 トラクター 掘り取り機の使用



4 病虫害対策

- (1) チョウ目の幼虫による食害
（クロモンシロハマキ、ヨトウムシ、キアゲハ）
基本は捕殺、状況により登録殺虫剤使用
- (2) アブラムシやハダニ…状況によりソフト農薬使用
- (3) 斑点病や苗立ち枯れ病…状況により登録殺菌剤使用
- (4) モグラや野鼠…モグラ捕り器の多用、ガム

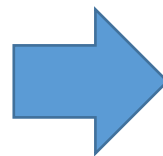
大和当帰栽培の推移



大和当帰葉の利活用

【これまでの取り組み】

買取り～洗浄～細断～乾燥～粉末化 → 商品開発



【課題】

葉の買取り量に比べ、使用量が少量。メーカーからの注文もあるが、少量で不定期的な購入。

粉末にする加工賃及び滅菌費用の負担増。 → 販売価格のUP

新たな大和当帰葉の利活用

「食」による活用から「香り」による利活用→薬草による「癒し」の提供

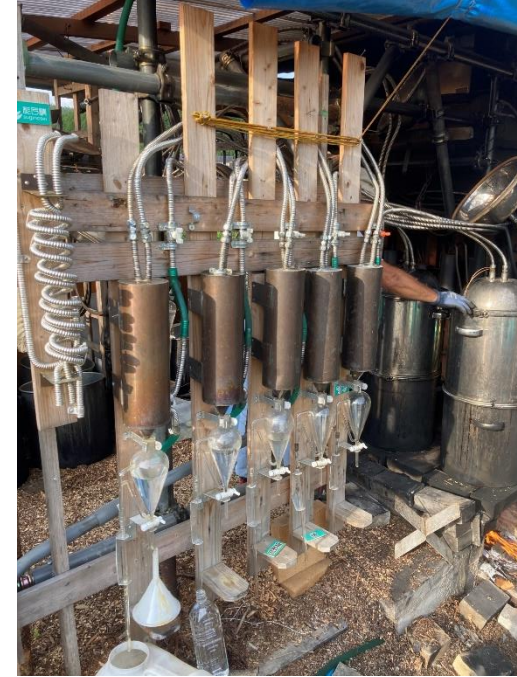


大和当帰葉精油を配合した香水



大和当帰葉精油
(生葉 5 kgから約0.1mg採取可能)

大和当帰葉の採油



大和当帰葉の消費拡大（1 mlの精油作成に約50kgの生葉必要）
食用ではないので生産コストの削減が図れる
乾燥葉でも精油可能

大和当帰葉 精油の利活用

- ・香水作成
- ・エステオイルでの使用
- ・化粧品開発



ふるさと納税による宇陀市オリジナル商品の発信

	R2	R3（11月末まで）
薬草関係商品ふるさと納税額	3, 7 0 8, 0 0 0 円	2, 2 9 4, 0 0 0 円

将来目標
5, 0 0 0, 0 0 0 円

今後の展望

